

そう だい
総 題 「エフェソの信徒への手紙」

だいじゅういつ か
第 1 1 課 キリストへの忠誠を实践する

りゅう じょんひょん
柳 鍾 鉉

いち あんそくにちご
1. 安息日午後

こんしゅう わたし かみ かんぜん ことば あらわ すく ものがたり わたし じだい ぶんか なか ろく
今週、私たちは神の完全な言葉によって表された救いの物語を私たちの時代や文化の中で、エフェソ6：
いち きゅう よ じゅうよう かだい
1～9 をどう読むかが重要な課題です。

に にちようび こ じよげん
2. 日曜日：子どもたちへの助言

エフェソ6：1～3を読んでください。パウロは子どもたちに十戒の第5条「父と母を敬いなさい」を引用
しながら、子どもたち自身が主に結ばれている者として両親に従い、敬うようにと勧めています。そのように
する子どもたちはこの地上において健康と幸福に預かる祝福を受けます。子どもたちにとって両親を敬うこ
とは自分たちに繁栄をもたらす神のご計画であるとパウロは話します。

さん げつようび りょうしん じよげん
3. 月曜日：両親への助言

エフェソ6：4とコロサイ3：2 1を読んでください。両親に対するパウロの勧告は、子どもを怒らせては
ならないとのことでした。異なる時代と文化に生きている親にとって、子どものしつけに関する考え方は様々で
す。ある親は子どもを自分の所有物のように考える人もいます。またある親は、子どもをあまりにも愛するがゆ
えに子どもの言うままにして大変甘やかす人もいます。パウロはクリスチャンの父親に対して、キリストがしつけ
論されるように愛の関係の中で子どもと関わるようにと勧めています。

よん かようび じだい どれいせいど
4. 火曜日：パウロの時代の奴隷制度

エフェソ6：5～9を読んでください。パウロの時代には奴隷制度がありました。しかしそれは神が考案された
ものでも神の御心でもありませんでした。奴隷制度は愛の神からみると悪そのものでした。パウロは社会変革者
としてではなく、一人の牧会者としてクリスチャンの奴隷たちに次のように助言しています。「人にへつらおうとし
て、うわべだけで仕えるのではなく、キリストの奴隷として、心から神の御心を行い、人にではなく主に仕える
ように、喜んで仕えなさい。」(エフェソ6：6、7)

ご すいようび どれい
5. 水曜日：キリストの奴隷

パウロは、クリスチャンの^{どれい}奴隷たちに主人に^{しゅじん}従^{したが}い、^{まごころ}真心からの^{すぐ}優れた^{ほうし}奉仕をするように^{もと}求めています。パウロが
そのように^{もと}求めたのは、^{しゅ}主であるキリストを^{みずか}自らの主人の^{しゅじん}代わりに^か置き換えることができる^おとの^か理由^{りゆう}からでした。
パウロ自身もキリストの^{どれい}奴隷として^{ひと}人に^{つか}仕えることを^{ほこ}誇りとしていました。そのような^{ちゅうじつ}忠実なクリスチャンの^{どれい}奴隷
は^{てん}天におられる^{しゅじん}主人から^{ゆた}豊かな^{むく}報いが^{やくそく}約束されています。

ろく もくようび ^{どれい} 6. 木曜日：奴隷である主人 ^{しゅじん}

エフェソ 6：9 を^{ろく きゅう}読んでください。パウロは^{どれい}奴隷^もを持っているクリスチャンの主人たちに、自分たちの^{しゅじん}奴隷^{じぶん}を^{どれい}脅^{おびや}かしたり、^{ふとう}不当な^{あつか}扱い^{おこな}を行^{すす}ったりすることを^{とうじ}しないようにと^{どれい}勧^{いっばんてき}めています。その当時、^{じぶん}奴隷^{しゅじん}たちは一般的に^{あつか}自分たちの主人に^うそのような^{りゆう}扱い^{ふた}を受けていたことがわかります。パウロはその理由を二つあげています。一つ目
は^{どれい}奴隷^{しゅじん}の主人と^{どれい}奴隷^{おな}は、^{しゅ}同じ主の^{どれい}奴隷^{ふた}である。二つ目は^め天の主は^{てん}全ての^{しゅ}人を^{すべ}分け隔てなく^{ひと}裁^わかれる。奴隷^{さば}を持つ^{どれい}主人も^も同じくキリストの^{しゅじん}奴隷^{おな}であることを^{どれい}覚えなければならぬとのパウロの^{おぼ}勧告^{かんこく}です。

しち きんようび ^{けんきゅう} 7. 金曜日：さらなる研究

確^{たし}かに1世紀に^{いっせい}神の^{かみ}靈感^{れいかん}を受けて^う書^かかれたエフェソの^{しんと}信徒^{てがみ}への^{にじゅういっせい}手紙^いを、21世紀に^{わたし}生きている私たちがどの
ように^{りかい}理解^{てきよう}し、^{じゅうよう}適用^{かだい}するかは重^{わたし}要^{あい}な^{かんけい}課題^{そくめん}です。しかしキリストと私たちの^{ものごと}愛^{かんが}の関係の側面から^{かんが}物事を考^{かんが}える
ことができるならば、^{わたし}私たちと^{かか}関わりのある^{すべ}全ての^{ひと}人々とどう^{かか}関わるべきかは、^{むずか}さほど^{かだい}難^{かんが}しい課題ではないよう
に^{おも}思います。